



Oracle Database Security Assessment Tool

Oracle DBSATによって自社のデータベースが
どれほどセキュアになるかを把握する

2020年5月 | バージョン 1.01
Copyright © 2020, Oracle and/or its affiliates
公開

データ侵害が日々増え続け、データ保護やプライバシーに関する一連の規制の整備が進みつつある中で、ビジネスの機密データと規制対象データを保護することは不可欠です。

しかしながらほとんどの組織が、データベースはセキュアに構成されているのか、どのようなユーザーがそのデータベースにアクセスできるのか、また機密の個人データはどこに保存されているのかを把握しきれずにいます。オラクルの多層防御機能の一部であるOracle Database Security Assessment Tool

(Oracle DBSAT) は、データベースの構成、運用、実装の領域でリスクを招く恐れがある部分を特定し、リスクを低減するために必要な変更内容と制御方法を提案します。

進化する規制遵守

セキュリティ構成の調査は、EU一般データ保護規則 (EU GDPR)、クレジット・カード業界のデータ・セキュリティ基準 (PCI DSS)、多数の侵害通知法をはじめとする多くの規制において、重要な要素となっています。Center for Internet Security (CIS: 米国インターネット・セキュリティ・センター)、米国国防総省など、さまざまな組織も、セキュリティ構成のベスト・プラクティスに関する推奨事項を設けています。新たな規制が発表され、多くの組織のもっとも価値ある資産、すなわちデータを保護するべく既存の規制が進化している中で、セキュリティ制御の重要性を軽視することはできません。

新たな制御を実装する前に組織が直面する最大の課題の1つは、自社のデータベースのセキュリティ対策状況を把握することです。組織は、データベースがどのようにセキュアに構成されているか、機密データがどこに保存されているか、機密データをどの程度保持しているか、どのユーザーが機密データにアクセスできるか、それらのユーザーはどのような権限を有しているか、そしてどのようなセキュリティ制御が実装されているかを迅速に特定する必要があります。

データベースがオンプレミスで実行されていると、クラウドで実行されていると、Oracle Database Security Assessment Tool (DBSAT) は、潜在的な機密データを発見し、データベースの構成、運用、実装の領域でリスクを招く恐れがある部分を特定します。DBSATは、異なる種類のデータをデータベースから収集し、分析することで、セキュリティ・リスクを特定します。さらに、それらのリスクを緩和するために必要な変更内容と制御方法を提案します。

ハッカーのように考える

攻撃者は通常、標的を理解するために相当な時間を費やします。データベース、オープン・ポート、既知の脆弱性、および特権ユーザー・アカウントの発見を自動化するツールを複数使用する可能性があります。その後で、パスワード窃盗、総当たりパスワード・クラッキング、権限昇格攻撃、SQLインジェクション攻撃など、さまざまな攻撃を仕掛けます。厳密な調査が終了すると、もっとも脆弱なリンクを特定し、次のステップを決定します。攻撃者は、基本的にまず現在のセキュリティ状態を評価し、捕まることなく機密データにアクセスできるもっとも容易な方法を見つけます。

たとえば、データが暗号化されている場合は、おそらく権限を持つユーザーとしてデータベースにアクセスする必要があります。デフォルトのパスワードを使用しているユーザーはいますか?権限を昇格できますか?監査が実施されていますか?どのユーザーがDBAと同様の権限を持っていますか?このデータベース・バージョンにはどのような既知の脆弱性がありますか?その脆弱性にはパッチが当てられていますか?どのようなパッケージ・アプリケーションが実行されていますか?それらのアプリケーションは強力なシステム権限を使用して実行されていますか?どのような種類の機密データを処理しますか?

ビジネス上のおもなメリット

現在のセキュリティ状態を迅速に評価し、Oracle Database内の機密データを特定

実績のあるOracle Database Securityのベスト・プラクティス、STIG、CISベンチマークの推奨事項を使用して、リスクの発生を低減

セキュリティ評価結果を活用して、EU GDPRや他の規制の遵守を迅速化

価値あるレポートを数分以内にインストールして提供

オラクルのお客様には追加費用なしで提供

おもな機能

リスクの発生を増加させる可能性のある構成の設定を特定

慎重に扱うべきユーザー・アカウントとその権限、およびセキュリティ・ポリシーを特定

英語のデータ・ディクショナリと欧州の主要言語による機密データの発見

適切なセキュリティ制御を推奨および優先順位付け

このような問いのほかにも数多くの問いがハッカーの頭の中にあり、その解答が、データベースに侵入し、データを盗むための計画を思いつくのに役立ちます。

組織は、データの所有者、管理者、処理者として、ハッカーと同じように考える必要がありますが、その目的は、ハッカーが自社のデータベースを標的にする前に、セキュリティ状況を改善することです。

現在のセキュリティ状況を評価し、不意を突かれないようにするために何が必要であるかを把握しているにもかかわらず、多くの組織は、データベース・セキュリティ専門家がいな、時間が不足している、適切な優先順位付けができない、リスクを誤解しているなどの理由から、自社のデータベース・セキュリティを評価することに苦心しています。データベースの保護方法に関する知識が、DBAと、ネットワークやエンドポイントの保護をもっとも重視しているITセキュリティ・チームとに、組織的に分散されている場合もあります。

Oracle DBSATは、適切な種類の構成情報をデータベースから収集し、現在のセキュリティ状態を評価することで、評価プロセスを迅速化させるとともに、特定されたリスクを緩和する方法を提案します。DBSATは、データベースがどの程度セキュアに構成されているか、どのようなユーザーがデータベースにアクセスでき、それらのユーザーはどのような権限を有しているか、どのようなセキュリティ・ポリシーが導入されているか、どのようなセキュリティ制御が実装されているか、機密データはどこに保存されているかを素早く表示します。以下の図は、サンプル・データベースのセキュリティ状態をまとめたものであり、評価結果をリスク・レベルで分類しています。

Section	Pass	Evaluate	Advisory	Low Risk	Medium Risk	High Risk	Total Findings
Basic Information	0	0	0	0	0	1	1
User Accounts	5	0	0	4	2	1	12
Privileges and Roles	5	16	0	0	0	0	21
Authorization Control	0	1	1	0	0	0	2
Fine-Grained Access Control	0	1	4	0	0	0	5
Auditing	0	4	2	0	6	0	12
Encryption	0	1	1	0	0	0	2
Database Configuration	5	3	0	3	2	1	14
Network Configuration	1	1	0	0	3	0	5
Operating System	1	0	0	2	1	1	5
Total	17	27	6	9	14	4	79

図1：Oracle Databaseの現在のセキュリティ状態のサマリー

DBSATは、一連の評価結果という形で、分析の結果を報告します。それぞれの評価結果では、ステータスの概要、リスク・レベル、サマリー、詳細、および参考資料を必要に応じて提供します。また、結果がOracle DatabaseのSTIGルール、Center for Internet Security (CIS) ベンチマークの推奨事項、またはGDPRの条項/備考に関連しているかを指摘します。以下の2つの評価結果は、どのユーザーが強力なDBAロールを有しているか、そのロールはどのように取得されたか（直接付与、他のロールを介した付与）、およびどのユーザーがデフォルトのパスワードを使用しているかを示しています。

関連製品

Oracle Databaseの多層防御セキュリティ製品：

- Oracle Advanced Security
- Oracle Key Vault
- Oracle Database Vault
- Oracle Data Masking and Subsetting
- Oracle Label Security
- Oracle Audit Vault and Database Firewall

DBA Role

PRIV.DBA
CIS

Status Evaluate
Summary 6 grants of DBA role.
Details Grants of DBA role:

```

DBSAT <- APPROLE1 <- APPROLE2 <- APPROLE3: DBA
DBSAT <- APPROLE2 <- APPROLE3: DBA
DBSAT <- APPROLE3: DBA

MYDBA: DBA

SCOTT: DBA
SCOTT <- APPROLE1 <- APPROLE2 <- APPROLE3: DBA

```

Remarks The DBA is a powerful role and can be used to bypass many security controls. It should be granted to a small number of trusted administrators. As a best practice, it is recommended to create custom DBA-like roles with minimum set of privileges that users require to execute their tasks (least privilege principle) and do not grant the DBA role. Privilege Analysis can assist in the task of identifying used/unused privileges and roles. Having different roles with minimum required privileges based on types of operations DBAs execute also helps to achieve Separation of Duties. Furthermore, each trusted user should have an individual account for accountability reasons. Avoid granting the DBA or custom DBA-like powerful roles WITH ADMIN option unless absolutely necessary. Please note that Oracle may add or remove roles and privileges from the DBA role.
References CIS Oracle Database 12c Benchmark v2.0.0: Recommendation 4.4.4

図2：Oracle Databaseの現在のセキュリティ状態のサマリー

上の例では、ユーザーSCOTTは他のロールが付与されたことによって（APPROLE3、APPROLE2、APPROLE1の順で）間接的にDBAロールを取得しており、MYDBAユーザーはDBAロールを直接付与されていることがDBSATのレポートに示されています。

Users with Default Passwords

USER.DEFPWD
CIS STIG

Status High Risk
Summary Found 2 unlocked user accounts with default password.
Details Users with default password: HR, SCOTT
Remarks Default passwords for predefined Oracle accounts are well known and provide a trivial means of entry for attackers. Well-known passwords for locked accounts should be changed as well.
References CIS Oracle Database 12c Benchmark v2.0.0: Recommendation 1.2
Oracle Database 12c STIG v1 r10: Rule SV-76031r1, SV-76339r1

図3：デフォルトのパスワードを使用しているユーザー

評価結果は、HTML、Microsoft Excel、JSON、テキスト・ファイルなど、複数の形式で提供されるため、組織はこのデータを構成やリスク管理ツールの一部として組み込むことができます。

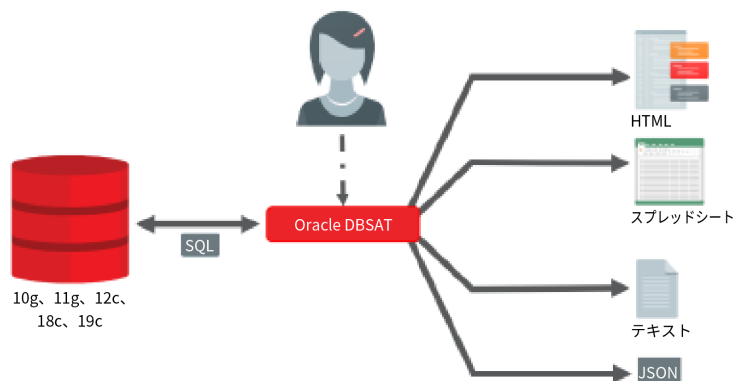


図4：Oracle DBSATレポート

機密データの検出

EU GDPRなどの規制により、組織は個人情報（PII）データを保護することが義務付けられていますが、まずどのような個人データがどこに保存されているかを把握する必要があります。

DBSATは、カスタマイズ可能な正規表現パターンを使用して機密データのデータベース・メタデータをスキャンし、発見された機密データの量と種類を報告します。機密データは、英語のデータ・ディクショナリ（列名およびコメント）を使用して検索できるほか、欧州の主要言語（オランダ語、フランス語、イタリア語、ドイツ語、ポルトガル語、スペイン語など）でも検索できます。これにより、保有している機密データの量とその存在場所についてより詳しく把握できるため、アクセス制御、監査、マスキング、暗号化を適切に実施してデータベースを保護できます。以下の図は、データベース・メタデータのスキャンを基に作成されたサマリー・レポートです。

Sensitive Category	# Sensitive Tables	# Sensitive Columns	# Sensitive Rows
BIOGRAPHIC INFO – ADDRESS	7	18	244
FINANCIAL INFO – CARD DATA	2	2	256
HEALTH INFO – PROVIDER DATA	1	1	149
IDENTIFICATION INFO – PERSONAL IDS	3	3	356
IDENTIFICATION INFO – PUBLIC IDS	3	12	321
IT INFO – USER DATA	1	1	149
JOB INFO – COMPENSATION DATA	7	10	527
JOB INFO – EMPLOYEE DATA	12	25	569
JOB INFO – ORG DATA	7	8	412
TOTAL	21*	80	989**

図5：機密データ状況のサマリー

まとめ

機密データがどこにあり、どのように構成されているかを把握することは、多層防御戦略を実装する上での基礎となります。100 %セキュアなシステムはありませんが、基礎に目をつぶることは、攻撃者の侵入を容易にするだけです。

Oracle Database Security Assessment Tool（DBSAT）は、機密データを素早く発見し、データベースの構成、運用、実装の領域でリスクを招く恐れがある部分を特定します。

DBSATは、有効なサポート契約を結んでいるオラクルのお客様には追加費用なしで提供されます。詳細およびDBSATのダウンロードについては、www.oracle.com/database/technologies/security/dbsat.htmlを参照してください。

CONNECT WITH US

+1.800.ORACLE1までご連絡いただくか、oracle.comをご覧ください。

北米以外の地域では、oracle.com/contactで最寄りの営業所をご確認いただけます。

 blogs.oracle.com

 facebook.com/oracle

 twitter.com/oracle

Copyright © 2020, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. 本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載されている内容は予告なく変更されることがあります。本文書は、その内容に誤りがないことを保証するものではなく、また、口頭による明示的保証や法律による黙示的保証を含め、商品性ないし特定目的適合性に関する黙示的保証および条件などのいかなる保証および条件も提供するものではありません。オラクルは本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクルの書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

OracleおよびJavaはOracleおよびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

IntelおよびIntel XeonはIntel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARC商標はライセンスに基づいて使用されるSPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴおよびAMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devicesの商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。0120

